

Halu 農法オンライン講座 応用編テキスト(12月)

応用編 (実践編、座学編)

1 今月の収穫

人参、大根ともに大きくなっていると思います。

人参：根の太さとは関係なく、いつでも収穫可能です。とくに葉のほうは天ぷらにすると大変美味しくいただけます。

大根：千葉県 Halu 農園では 8 月最終週から 9 月に種まきしたので、よく成長しています。年明けにかけて、いつでも収穫可能です。



2 今月の種まき

そら豆、えんどう豆

11月に続き、そら豆、えんどう豆の種まきをお勧めします。ただ、この時期は、路地の畑で種まきしても、寒さのためにほとんど発芽しません。そのため、直接種を播くのではなく、苗を作って植え付けることをお勧めします。

苗は、ホームセンターで小さめのポットを購入し、そら豆、えんどう豆の種を植えて、家の中で発芽させてください。なるべく日の当たる部屋に置いて、背丈が 15 cm ぐらいになったら、畑に植え付けます。



植える際にひとつ注意点があります。畝にはあらかじめ穴を掘っておき、ポットから取り

出した苗を植えて、隙間に土を加えて両手を使って押さえます。その際、しっかり体重を乗せて押さえます。ふわっと土を乗せたままだと、根っこが浮いてしまい、水を吸えなくなって枯れてしまうことがあります。今回に限らず、苗を植えるときは、しっかり土を抑えて固めましょう。

また、苗を植えるときは、マルチを使っても良いですし、使わなくても良いです。マルチを使うと、来年春に雑草を抑えることができるので、収穫しやすいというメリットがあります。マルチの張り方については、基礎編の動画「マルチの使い方」を確認してください。

3 トンネルハウス

12月は冬の冷たい風が吹きます。関東から西の地方では、11月にご紹介した防風のための不織布でも良いのですが、関東から北の寒い地方では、トンネルハウスという小さなビニールハウスをつくると、野菜が成長しやすくなります。そこで、今月はトンネルハウスの仕立て方をご紹介します。



用意するのは、トンネルハウス用のビニールとアーチ形の支柱、それにビニールを支柱に固定するためのパッカーです。ビニールは、幅180cm以上のものを選ぶと良いでしょう。ホームセンターに行くと、家庭菜園用の長さ50mものが置いてあります。仕立て方は、動画をご覧ください。

トンネルハウスを仕立てる場合に、注意点としては雨が降ってもビニールが雨除けになってしまうため、水不足になる可能性があります。野菜の成長具合を見て水が足りないと感じるときは、ジョーロなどで水を与えてください。

【座学編】

「肥料と農薬」

Halu農法は、肥料も農薬もどちらも使いませんが、一般的に「肥料は必要なもの」と考えられていると思います。では、野菜作りをするうえで、肥料を使うとどのような問題が起

きるのか、あるいは農薬はどんな働きをするものなのか、少し知識を整理しましょう。

現代の農業技術では、農薬は安全だとされていますが、それは長期間の実験を経たものではなく、また人体実験で安全性が確認されたものでもありません。根本的には、人体にとって毒であるため、取り扱い方法が厳しく定められています。ということは、やはり農薬を使わずに済むなら、使わないほうが良いのです。

また、そもそもなぜ農薬が必要なのかというと、それは肥料を使うからなのです。そのあたりも、一度整理していかいと、**Halu** 農法をもっと楽しく実践できるでしょう。詳しくは動画をご覧ください。

■講師・監修 横内猛 農業技術研究所（農業生産法人） 株式会社歩屋 代表取締役。食と農ジャーナリスト。慶應義塾大学経済学部卒業後、全国紙記者を経て、「すべての人が幸せに暮らせるコミュニティのあり方」を求め、主に福祉や教育の現場にかかわる。（1986～2006年）さまざまな社会問題がいつそう深刻化していくなか、問題の根本に「食と農の歪み」があるという考えに至り、自ら画期的な農業技術である「自然農法」に注目し、新しい農場技術の研究を始める。（2007年～現在）独学で試行錯誤を重ね、自然農法の仕組みを考察し、2013年8月には、大玉スイカやマスクメロンの栽培に成功。2015年7月特許取得（方法特許 第5770897号）この技術をさらに深め、新しい自然観、新しい社会の構築を提案しています。